



発行所
北海道北見市北斗町
北見北斗高校同窓会
事務局 ☎24-3195
印刷：柳須田製版



ご挨拶

同窓会会長
小原 誠

令和元年度の「とどの実会」
会報発行に際しまして、一言ご
挨拶申し上げます。

元号が平成から令和へ変わり、
新時代を迎えました。国内で
は9月から11月までラグビーワ
ールドカップが行われ、来年は
東京オリンピックを控えるなど、
日本中が盛り上がりつつあります。

毎年、8月5日に北見で開催
される「とどの実会懇親会」は、令
和最初の集いを、当番幹事であ
る70期のみなさんごの尽力によ
り、盛会の内に終了することが
できました。暑中、会場に足を
運んでくださったおよそ600
名の皆様、ゴルフ大会より参加
してくださった方々、並びにご
協賛いただいた各位にお礼を申
し上げます。また、東京とど
の実会の長谷川知子会長、札幌
とどの実会の佐々木亮子会長、
そして関西とどの実会の青木二
郎顧問におかれましては、遠方
よりご出席いただきありがとうございます。

ここで、各支部の活動について
ご紹介いたします。

4月21日、第37回関西とど
の実会（42期伊藤純夫会長）総
会・懇親会が、ホテルセントノ
ーム京都（貴船）にて行われま
した。東京、札幌からも3名の
来賓を迎え、30名の方が参加
されました。全員がスピーチを

するなど、とても和気藹々とし
た時間を過ごしました。

第69回東京とどの実会の集い
（40期長谷川知子会長）は、6
月22日にホテルモントレ半蔵門
にて開催され、130名もの参
加を見ました。ゲストとして、
北見北斗高校の教員でもありラ
グビー部監督でもあった26期
口光先生と、平昌オリンピック
女子カーリング銅メダリストの85
期藤澤五月さんをお呼びしまし
た。終始、活気にあふれた会と
なりました。

第50回札幌とどの実会（40
期佐々木亮子会長）総会・懇
親会は、7月13日、札幌すみ
れホテルにて90名が参加し行わ
れました。札幌とどの実会の日
頃から親睦行事が盛んで、野
遊会、とど飲み会、囲碁会、パ
ークゴルフ会と様々な集いが企画
されています。

8月30日には、旭川とどの実
会の総会・懇親会（52期中野
均会長）が、アートホテル旭川
にて行われました。参加人数20
名という家庭的な雰囲気、土
地柄でしょうか、参加者の顔ぶ
れには、医療関係者が多く見
られました。

さて、9月29日に行われた伝
統行事の1つである強行遠足は、
今年で87回を数えました。全
日制は男子361名が71.0 km、

女子266名が41.2 kmを、定
時制は男子19名が26.7 km、
女子11名が21.5 kmを走りま
した。

そのうち完走したのは、全日
制 男子285名（78.95%）、
女子263名（98.87%）、定
時制 男子15名（78.95%）、
女子11名（100%）でした。

そして、全日制で1位となっ
たのは、男子が3年6組 朝鳥
雄太君（6時間53分00秒）、女
子が3年2組 飯田依未さん（3
時間38分32秒）で、男女とも3
年生が有終の美を飾りました。

また、保護者658名、外
部ボランティア23名のお手伝い
がなければ、無事に終了すること
はできませんでした。

同窓会も70期のみなさんが、
置戸一秋田間に特設給水所を
設置したり、路上観察に当たっ
たりしました。大勢の方々のご

協力を感じたいします。

今年4月には室蘭栄高校か
ら、佐々木淳校長が着任され
ました。3月に定年退職された
渡部道博前校長から伝統のバト
ンを引き継ぎ、本校のさらなる
教育活動の充実に取り組んでく
ださることを願っています。

北見北斗高校は、今年で創
立97年目、令和4年には100
周年を迎えます。卒業生の数は
旧制中学の時から数えて間もな
く27000人に届こうとして
います。生徒たちは、校訓であ
る「文武両道」「質実剛健」を
受け継いで、学業や部活動、地
域貢献などに打ち込み、その個
性と能力を研いんでいます。

誇りあるわが母校のますます
すの発展と、同窓会会員の皆様
そして北見北斗高校にご縁があ
る方々の活躍をお祈りし、ご
挨拶いたします。



開校九十七年目の素描

校長
佐々木 淳

同窓会「とどの実会」の皆様
は日頃から母校北見北斗を支え
ていただきありがとうございます。
す。おかげさまで生徒たちは伝
統を受け継ぎ、開校から97年目
の歴史を伸び伸びとそして確
かに刻んでいるところです。私も着任
から半年が過ぎ、手前味噌ではあ
りますが徐々に本校の魅力を周
囲に伝えられるようになってきた
と感じています。

私自身の北緯43度以北での勤
務はこれで2度目となりますが、
地域を代表する植物であるトド
マツを校章の素材に選んだ学校、
そして同窓会に「とどの実」を冠
する学校に勤務できることを感

「トドマツは針葉樹ですから、見
る人に「針」をイメージさせます
が、いざその葉と握手を交わして
みると意外にも手触りは優しく、
多くの人が驚くのではないでしょ
うか。葉の先端を詳しく見ると、
針どころか「心」のように丸みを
帯びたデザインであることに気づ
きます。そして葉の一枚一枚は細く
薄く、厳しい寒さを最小のエネル
ギーコストでしのぐよう設計され
ています。

そのトドマツは今日も北斗の杜

に並び立っています。腕と見間違
う枝たちはまるで空を指さすか
のように伸び、壮観で見る者に勇
気を与えているように思います。」
理科教員の悪い癖で、あふれる
トドマツ愛に誌面を費やしすぎま
した。ここまでにはありますが、こ
とは、私の同郷人でもあり、同じ
教科を専門としておられた初代
校長の佐藤猪之助先生もきっと
感じておられたのではないかと推
察しているところです。

さて、昨年度と今年度の生徒た
ちの活躍の様子は最終ページの
「母校の現況」にまとめさせてい
だきました。文武両道 質実剛健
の建学精神が脈々と引き継がれ
ていることを実感していただける
のではないかと思います。

第87回強行遠足は9月29日に
実施しました。スタートした生徒
は全日制生徒627人、定時制生
徒30人。さわやかに晴れたたつた
秋空の下を常盤公園のゴール目指
して力走しました。中には声をか
けあいながら和気あいあいと歩き
走る生徒あり、また黙々と孤独な
自分との戦いに徹する生徒あり
と様子はさまざまでした。その結
果、完走した生徒の数は全日制5
48人、定時制26人となりました。
これもひとえに各関門での給
水、うどんなやおしるこの提供、体
調管理サポート、路上での観察と

いよいよ令和元年度も終盤に
近づいてきました。本校の今年度
後半におきましては、とどの実会
のご支援をいただき、生徒を海外
に派遣する「ボストン研修」と「台
湾サイエンス研修」を予定してお
ります。

声援をいただきました保護者や
同窓生、地域の皆さまのおかげと
感謝しております。

結果としてほぼ昨年並の完走
率で終了することができました
が、それには生徒たちの頑張りも
さることながら、大勢の方々に、
や元気を無くしかけた頃にタイ
ミングよく励ましの声をかけて
いただいたおかげであらうと思っ
ております。

6月12日に行われました代議
員総会では、前回参加した生徒が
同窓の皆様の前で研修の報告を
行いました。生徒たちは、多くの
先輩たちの前で多少緊張しなが
らもなんとかプレゼンテーションを
終え、「頑張っているな」「頼もしい
ぞ」といった励ましの声にホッとし
た表情を見せていました。今年度
も皆様に「支援いただいたこれら
の事業を継続することに感謝い
たします」とともに生徒たちが普
段の生活の中では得られない経験
をして成長できるよう学校とし
てしっかり支えていくことをお約
束いたします。

どうぞ今後ともよろしくお願い
いたします。

とどの実会役員

●北見本部

顧問	佐々木 淳	（現校長）
顧問	渡辺 和男	（26期）
顧問	小原 誠	（52期）
副会長	五十嵐 力	（35期）
副会長	黒部 哲哉	（40期）
副会長	小泉 裕行	（40期）
副会長	福地 博裕	（44期）
副会長	阪田 龍一	（46期）
副会長	戸田 雅俊	（54期）
副会長	中村 幸喜	（55期）
副会長	宮本 太郎	（56期）
副会長	栗山 真人	（57期）
副会長	原谷 志	（58期）
副会長	中村 秀樹	（62期）
副会長	細川 順子	（65期）
副会長	田巻 道博	（52期）
監査	渡部 直哉	（59期）
監査	信田 裕一	（59期）
幹事	永田	

令和2年度の当番幹事は

71期生です

よろしくお願いします

北見北斗高校公式ホームページ

<http://www.kitamihokuto.hokkaido-c.ed.jp>

SSHの活動を始め、北見北斗高校の最新情報をお知らせしています。ぜひご覧ください。



当番幹事を代表して

第70期代表幹事
段城 和彦

本年度の「とどの実会」の当番幹事は、私たち70期が務めさせていただきます。

この「とどの実会」は、「強行遠足」となり、北見北斗高校の歴史と伝統の象徴とされております。

本年度は、元号が「平成」から「令和」に変わる節目の年でもあり、この年に当番幹事を務めることができたことを誇りに思います。

歴代、当番幹事を務めてきた諸先輩からは、協賛集めの大変さと、当日までの準備作業の重要性をお聞きしてました。

それと同時に、久しぶりの仲間との再会や、終わった後の充実感も聞いており、不安と希望を抱いての準備開始となりました。

1月から集まり、漠然と当日までの準備を考えていると、あつという間にゴールデンウィークも終了。慌てて最初の幹事会をスタートしました。

母校に集まり、打ち合わせをはじめましたが、久しぶりの再会に、妙にぎこちない話し方で、緊張した打ち合わせだったのを覚えています。

終盤には、昔のことを思い出しながらの会話となり、自然と話が進んでいったような気がします。

最初の幹事会では、事務局から、「とどの実会」での活動が、部活動遠征や、大会出場などの支援となつていくことの説明を受け、今年、自分たちが、その一端を担うことになったことに責任感を感じるとともに、自分たちが学生だった時も、諸先輩方のおかげで充実した高校生活を送ることができたことを知ることができました。

当日までは、各部会に分かれて準備を進めましたが、初めての経験であるため、難航することもありました。

支部だより

札幌支部
活躍する後輩たち 万歳！

2019年の同窓会めぐりは、4月21日(日)の「関西とどの実会」、6月22日(土)の「東京とどの実会」、7月13日(土)は自ら所属する「札幌とどの実会」、そして8月5日(月)は北見の「とどの実会」に参加しました。ひよとしてしたら全部のどの実会出席を達成したかもれません。

東京とどの実会には、平昌オリンピック女子カーリング銅メダリストの藤澤五月さん(85期)がゲストとして招待されていました。

藤澤五月さんは、東京とどの実会の期別ごとの写真撮影だけでなく、数限りないツーショットの撮影を求められ続けていました。だが、嫌な顔つけないで延々と応じている姿を見ていて、恐らく先輩のおじさんおばさんたちの知らないアスリートとしての到達した境地があるのだらうと想像しました。立派な姿でした。

また、8月の北見のどの実会出席の折には、かねてより環境分野でお名前を聞いていた北見北斗高校の理科(生物)の先生を、同期の関西とどの実会顧問と二人で訪問しました。

北見北斗高校が2017年から5年間のスーパーサイエンスハイスクール(SHS)に指定されたことは承知していましたが、はるか以前の2003年に北海道からサイエンスハイスクール奨励校に指定され、翌年には部活動として「サイエンスクラブ」が発足したというのを知り、一番驚きました。クラブの部員だけでなく、1年生240人全員が毎年常呂川の生き物や水質を調査していたという実績があった

そうです。この活動によって生徒たちは「水質が良くない」「川を何とかしたい」という問題意識を持ち始め、浄水場の職員や民間企業の工場の方のお話を聞くなど、勉強と情報収集につとめていたというのです。

(公財)北海道環境財団や常呂川水系環境保全対策協議会等々から助成金を受けながら、環境保全のための外来種の駆除やゴミ拾いの結果をデータ化するなど、生徒たちは研究や活動を通じて力をつけていきました。

また、環境保全シンポジウム「水ミーツイング」を開催したり、写真集を作成したり、水の大切さを絵本にしたり、周りの先生たちの力を借りながら自信を深めていったようすです。

東京支部

東京とどの実会幹事長
田上 博志 (50期)

本稿を書いている間に日本において歴史的なことが起こりました。一つは、天皇陛下が即位を国内外に宣明される「即位礼正殿の儀」が10月22日、皇居・宮殿で執り行われたことです。天皇陛下は「国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います」と述べられ、儀式には国内外から約二千人が参列し晴れやかにそして厳かに行われました。

もう一つは、日本の開催となったラグビーワールドカップであり、日本は今大会、ロシアとの開幕戦に勝つと、アイルランド、スコットランドといったラグビー伝

統国も下して全勝で1次リーグを首位通過し、史上初めてW杯8強入りを果たしました。決勝トーナメントに進んだ日本は、10月20日、準々決勝が行われ、過去2度の優勝を誇る南アフリカに破れ、準決勝進出は叶いませんでした。しかしながら、桜のジャージを着た日本チームは、日本中を沸かす多くの感動を与えてくれました。

今年5月、平成の時代が終わりと、新たな令和の時代を迎えることとなりました。この令和には、「悠久の歴史と薫り高き文化、四季折々の美しい自然。こうした日本の国柄を、しっかりと次の時代へと引き継いでいく。厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のよう、一人ひとりの日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。」との思いが込められました。

今を生きる私たちにとって、この歴史的瞬間に立ち会えたことは、国民全員で共有できる貴重な経験であります。これから私たち日本人が心を一つにして、平和で安全安心な社会、格差のない社会、全国どこでも生き生きと暮らせる社会を願い、令和の時代が夢と希望の持てる社会になるよう、気持ちを新たにしていきたいと思っています。

その一方、国外に目をやれば、中国は南シナ海への軍事進出や経済圏構想「一帯一路」で覇権の道を突き進み、米国は自国第一主義に傾き、他国に一方的な制裁を振りかざす。そして欧州連合(EU)からの離脱で迷走する英国、軍事色を強めるロシア、排他的な極右が対等する欧州など、調和を忘れた国が目立つ中で令和の日本はアジアでそして世界で番実直な国であり続けたいと思います。その実直さの裏側には虚飾を排し、何事にも丁寧に取り組む日本独自の文化や感性があるのではないのでしょうか。日本は、来年度に東京オ

リンピックを控え、ますますインバウンドが増えるところ外国からの訪問者に大いに日本文化のすばらしさに触れていただきそれを自国で広めてほしいと願っています。

さて、今年、「東京とどの実会の集い」は、第69回目を迎えました。去る6月22日都内のホテルで行われた集いには近年最多の135名の来賓、同窓生が集まりました。この時、このラグビーヤーに最も相応しい、恩師の養口光先生をお招きしました。養口先生は、北見北斗高校に17年間、奉職され数多くの同窓生を指導し育てていただきました。とりわけラグビー部の監督として活躍され、9度も全国大会に出場し、2度の準優勝を果たしたラグビー部の黄金期を築かれました。会では養口先生から当時のお話を伺うとともに二次会では先生を慕う多くの元ラグビーマンが参集し昔話に花を咲かせました。

また、昨年の平昌オリンピック、女子カーリング競技のメダリストである藤沢五月さんをゲストとして招待しました。参加した同窓生から見れば自分の孫か娘の世代になります。藤沢さんは、各テーブルを回り写真撮影に気軽にに応じてくれ場は大いに盛り上がりました。藤沢さんが高校卒業後の進路で悩んでいた時、恩師からの「学ぶことはいつでもできる。しかし、今にしかできないことがある。」という言葉に励まされ実業団チームにいくことを選択、現在までの躍進となりました。

わが母校の同窓生は、多かれ少なかれこうした恩師の存在や言葉の影響を受けています。母校に息づく「文武両道・質実剛健」の伝統の精神が今も引き継がれ同窓生の中に一つの絆となつて受け継がれていくことはすばらしいことです。

日本の近代化に貢献した、日本資本主義の父と称される「夢なき者は理想なし。理想なき者は計画なし。計画なき者は実行なし。成果なき者は幸福なし。ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。」とあります。これから育つ若い後輩達には大いに夢を持ち続けてほしいと思つていこうと

東京とどの実会には、来年、70周年を迎えます。これから東京や関東に在っても母校を思い母校につながる同窓生の親睦を深め母校の発展に寄与したいと思つております。これまで繋いでくれた先輩からのバトンを次の世代に繋いでいきたいと考えています。これを讀まれた東京近郊在住の同窓生の皆様(特に若い期の方)又は東京近郊在住同期生をご存知の方、是非、当方までご連絡ください。

(tgmhro001@outlook.jp; tgmhiro007@icloud.com; tgmhiro007@icloud.com)

最後になりますが、わが母校の益々のご発展と同窓生皆様のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

関西支部
奥村 公平 (43期)

第37回関西とどの実会総会・懇親会が2019年の4月21日(日)京都駅付近の会場で開催されました。

今年、とどの実会会長の小原誠氏、札幌とどの実会会長の佐々木亮子氏、東京とどの実会会長の前田良三氏、幹事の村田由美子氏を来賓に迎えての総会になりました。

